76

韓国における宣教医（第一報）

高安伸子

明治学院大学図書館所蔵の The Christian Movement in Japan と The Christian Movement in the Japanese Empire 巻末に載せられた在韓国宣教師ディレクトリをもとに、プロテスタントミッションが一八八〇年代後半より一九一〇年代にかけて韓国に派遣した宣教医数、所属ミッションなどの概略を前回の総会で報告した。今回は主参考文献として一九二九（昭和四）年に発行された L. GEORGE PAIK 著の The History of Protestant Missions in Korea 1832-1910 を使用した。

L. GEORGE PAIK 著の The History of Protestant Missions in Korea 1832-1910 は Union Christian College Press より一九二九年に初版が発行され、一九七〇年に Yonsei Univ. Press からリプリントされた。本書は各ミッションのリポートを主資料に書かれており、重要な部分ではリポート本文を注として引用掲載している。韓国での医療事業の内容や派遣された宣教医の氏名も数おおく記され、日本側に残されたミッション年鑑の記述を補う文献である。今回は第一報として重要と思われる宣教医三名の経歴と活動概要を紹介する。この時期は国号が朝鮮、大韓帝国と変化する時代であるが、韓国という名称で統一する。

一、Horace Newton Allen

一八五八年四月二三日米国オハイオ州デラウエアに生まれる。八一年にオハイオ・ウェスリアン大学神学部を、八三年にマイアミ医科大学を卒業。米国北長老教会の宣教医として同八三年一〇月一一日、上海に到着し八四年九月まで中国で過ごす。同八四年九月二〇日済物浦に到着、ソウルに赴任。一八八四（明治一七）年一二月四日におきた甲申事変で負傷した王子閔泳翊を治療したことにより王室の信頼を受ける。翌八五年西洋式病院の必要性を政府に説いて王立病院（広恵院のちの済衆院）を設置させ、運営をおこなった。

韓国でのプロテスタント伝道は彼の医療伝道による活躍から開始されたとも言われるが、外交官としての手腕を期待され、九〇年には宣教師を辞職、駐韓国米国公使館の書記官となる。公使、総領事を歴任し一九〇五（明治三八）年、親日政策をとる米国外交政策に反対し解任された。一九三二年一二月一一日没。

二、William Benton Scranton

一八五六年五月二九日米国コネチカット州ニューヘブンに生まれ、七八年イェール大学を卒業、八二年にニューヨーク医科大学を卒業した。八四年米国北メソディスト監督教会の宣教医として按手を受ける。翌八五年五月三日、のちに韓国で女性教育機関の梨花学堂（現在の梨花女子大学）を創立した母、Mary Fitch Scranton とともに仁川に到着。済衆院で短期間働いたのち、施病院の設立や米国北メソディスト教会の運営による医療機関を韓国各地に設立することに尽力。特に婦人と小児のための病院の設立に力を注いだ。韓国語聖書翻訳事業にも携わる。教育機関、培材学堂を設立した宣教師 Henry Gerhard Appenzeller は、彼とともに韓国に到着した同僚である。一九二二年没。

三、Oliver R. Avison

一八六〇年にカナダで生まれ、トロント大学医学部卒業。米国北長老教会の宣教医として九三年六月韓国に到着。ソウルの済衆院で活動。九四年王立病院済衆院は米国北長老教会に経営が移管され、九九年済衆院に医学校を設立して、韓国人医師養成に着手。彼の働きかけにより一九〇四年、米国の事業家であるセヴランス（Mr. Louis H. Severance）からの寄付を受けソウルにセヴランス病院を設立。一七年には病院の中にセヴランス医科大学を開き、本格的な韓国人医師養成に取り組む。病院は韓国で初めての現代式病院であり、医科大学は延世大学医科大学の前身であることから、セヴランス病院は韓国における西洋医学の発祥地とも言われ、彼の業績は今も残る。三五年に引退帰国、五六年に没した。

（順天堂大学医学部医史学研究室）